



座位型ポータブル尿流量測定器の開発

森澤 洋介

Yosuke Morizawa

泌尿器科学／助教

- **キーワード** 排尿障害、ポータブル、アプリ
- **対象疾患** 小児から高齢者すべての排尿障害
- **研究フェーズ** 草案の段階
- **モダリティ** 医療機器

シーズ概要

前立腺肥大症や過活動膀胱、小児の昼間尿失禁や夜尿症など、年齢や性別に関わらずスクリーニング方法は共通しており、自然な排尿を評価をするためには、通常の尿意を感じたタイミングで普段通りの排尿体位で尿流測定を行うことが理想的である。尿流量測定器は家庭内で使用可能な携帯型の尿流量測定器が開発されているが、立位排尿もしくは和式タイプの便器使用時にしか使用することは難しい。日本では生活様式の変化により洋式便器が一般的になっており、男児であってもトイレトレーニングの時期から座位排尿を標準としていることが多く、高齢男性の場合にもADLの低下や安全性の面から座位排尿が推奨されている。洋式便器に尿流量測定器が一体化された商品が医療機関で導入され、医療機関での検査となるため普段通りの排尿を評価することは難しい。家庭での洋式便器に着脱可能もしくはシート状でディスプレイな簡易型の尿流測定器が開発できれば、家庭内での自然な排尿状態をより正確に評価することが可能となる。

研究成果の応用可能性

家庭の洋式便器で使用可能な尿流測定器は小児から高齢者まで適応可能である。アプリと連動することでオンライン診療や遠隔診療にも応用可能である。

Appeal Point

アピールポイント

家庭内で客観的な検査が可能となり、より詳細な排尿状態の把握が可能となる。またオンライン診療や在宅医療への応用が見込まれる。

関連文献／特許

1. 加藤 忍, 日本排尿機能学会誌 (1347-6513)30 巻 2号 Page483-486